

スペイン・バルセロナにおける地域とのかかわりから学ぶ —地域における人々や学校、日本企業等とのかかわりを通して—

前バルセロナ日本人学校校長

福島県いわき市立中央台南中学校教諭 永山 誠一

キーワード：教育と地域のかかわり、地域から学ぶ、現地校の特色、現地で活躍する日本人

1. はじめに

平成30年11月20日、本校へ単身での赴任。衣食住に慣れることが第一であり、不安を抱いていたが、現地のスペイン人は親切であり、笑顔が多く見られ、不安感はすぐ解消した。

教育とは、「人が人を育てること」である。現地の人々の様子を学ぶこと、そして、教育環境を知ることを基盤として、「1. 地域から学ぶこと」、「2. 現地校の特色について」、「3. 現地で活躍する日本人について」の3点について、研究をすすめることとした。

2. 地域から学ぶこと

(1) 地域環境の整備について

街を歩いていると、ゴミ拾い、草刈り、樹木剪定など、作業している清掃員をよく見かける。清掃員すべてが、住民のため、一生懸命に町をきれいにしようとしている姿勢で、作業に取り組んでいる。すばらしい光景であり、感動した。

街のあらゆる場所で身近なところに、A 普通ゴミ、B 生ゴミ、C 缶・ペットボトル類、D 紙類、E ビン類等の区別された箱が設置されている。決まった収集日はなく、各箱のごみ集積状況によりクレーンのついた専用車が回収にあたっている。常に町はきれいであり、道などにゴミを捨てる人は少ない。

(2) 修道院の存在について

クリスマスが近づくと、町全体、人の動きが活発になる。大量に食材を購入し家庭で料理をつくらうとする風景が多く見られ、家族での生活を大切にしている様子が伺える。修道院での祈りに参加したところ、30分ほどの牧師の説話が終わると、近くの人と握手をしたり抱き合ったりと、互いに助け合い生きていこうと神の前で誓う姿が見られた。家族を愛し周囲の人々を愛し、助け合うこと、「人は一人では生きていけない」ということを確認させられた。

修道院の周囲にある広場では、定期的にとくさんの催しが行われている。コンサートやバザー、雑貨市など、多くの人が集まる。イベント終了後、ゴミが落ちており、泥等で地面が汚れていることもある。しかし、翌日には、地面は水洗いされ、ゴミひとつなく、きれいになっている。ブラシのついた清掃車が出動していた。「環境は人を育てる」といわれる。そのことをきちんと実行している。生きるために大切にしなければならないことをサンクガット修道院は人々に教えていると感じた。



サンクガット修道院

屋外での行動、修道院の中での説話等、一人ひとりが、「人が生きるために必要なことを教え導くという任務」を果たしていると感じた。

(3) 防犯について

街の路地等、あらゆる場所に防犯灯が設置されている。センサーで点灯するLEDなど、省エネはもちろん、設置箇所にも配慮するなど、安全対策に十分工夫が見られる。緯度の関係上、夏場は日照時間が長く、各家庭の夕食時間は午後8時以降で、それまで外で友達と一緒に過ごしている。冬になると早く陽が暮れるが、子ども達は暗くなくても外で遊んでいる。その要因は、家庭での夕食時間が、通年変わらないことから考えられる。大人たちも、遅い時間まで屋外で会食するなど、楽しく過ごす姿がみられる。

本校行事の開催にあたり、地元警察(スペイン人)や総領事館の警備担当職員(日本人)の協力のもと、安全体制を完備している。総領事の出席する行事(卒業式、餅つき大会など)での警備は、警察犬による爆破物の有無確認など、万全なものとなっている。また、バルセロナ市街で、多くの人が集まるイベントがある場合、本校幼児・児童・生徒へ事前の想定訓練を実施、指導をいただいている。

3. 現地校の特色について

(1) 教育活動の工夫とその実際について

①図書館司書の活用について

縦割りで班編成を行い、上級生児童により読み聞かせをする、著者を招待して本に関するインタビューをする、放課後午後6時まで図書室で学習支援をするなど、図書館教育や図書室の活用を工夫している。

②昼食(給食)指導の支援指導員の雇用について

昼食専任の指導員を雇用している。その間、担任教師は、休憩または打合せ等、他の業務にあたっている昼食時での問題行動等の児童生徒の様子が、指導員より担任教師等に伝わらず指導が徹底しないという課題はあるが、連携を意識して対応にあたっている様子は伺える。

(2) 家庭との連携の工夫について

①情報の発信と家庭との連携について

学校と家庭との連携については、パソコン・携帯等、電子メールでの連絡を充実させている。年度始めには校内生活や諸行事への協力依頼など、メール配信している。2018年度より成績もメール配信している。

②家庭における学習習慣の育成について

2017年度までは平日の宿題がほとんどであったが、2018年度からは平日の宿題を無くし、土日に出題するようにした。家庭での学習への取り組みについて、自主性や計画性の育成など、家庭からの協力を意図したのである。

4. 現地で活躍する日本人について

(1) 連携組織について

- ①互いに支援し合う気持ちが強い。
- ②人をまとめようとする意識が高い。
- ③メンバー個々の貢献意欲が強い。

(2) 地域貢献について

- ①組織編成によってより一層パワーアップしている。
- ②役割分担等、組織での運営を基盤としている。
- ③メンバーの特性が発揮でき、活かせるよう親睦を大切にしている。

(3) 企業の方向性について

- ①日本製品の良さを知らせることを第一に考えている。
- ②現地の労働者との信頼関係を大切にしている。

(4) 各事業・組織運営について

①日本企業人の活躍について

若手音楽家育成のため、日本の電気会社が主催し、カタルーニャ音楽堂でコンサートを毎年開催している。入選者の表彰と演奏の披露、地元著名人を招き交流会も兼ね開催している。地元への貢献度大であり、日本人の信頼度を深める素晴らしい事業である。

②日本企業間の連携について

バルセロナにて活躍している日本人が集結、互いに高め合う場として定期的に水曜会という名称の会合を開催している。研修や親睦の機会として開催し、海外企業のプレゼンなど、グローバルな見地での交流の場であり、内容の工夫、充実が毎回みられる。

日本人の集結力はすばらしく、互いに助け合おうとする精神は、日本人が世界に誇れるものの1つである。それぞれの活動で、日本人が互いに助け合い、たくさんのことを実行している。人間の原点を改めて感じた日々であり、活動を通して多くのことを学ぶことができた。現地で生活している人たちに感謝したい。

5. まとめ

このように、互いに助け合い、社会をよりよいものにしようと努力することが人間本来の姿であり、誰もがもっているものである。このような機会をいただき、もう一度人生を見直すよい時間となったことに感謝したい。日本に戻り、世界で活躍する人材の育成に尽力したい。現在、日本では、教員の働き方改革を推進しており、今回学んだことを教育のさらなる改善と発展のため、様々な場面で活用したいと考えている。ありがとうございました。